

第27回字部・小野田圏域緩和ケア

事例検討会

切れ目のない緩和ケアを実施するために、多職種による事例検討を実施し、顔の見える関係づくりをめざしています。

喉頭摘出術を告知された患者は、声帯機能存続への願いと、生存への駆け引きに苦悩すると言われています。喉頭全摘出術の方針となったA氏の楽しみは、遠方に住むお孫さんと毎日電話で会話してコミュニケーションをとることであり、術後声を失うことから、手術に躊躇されていました。今回、音声合成アプリケーションを利用することで、自分の声を残せるなら、手術を頑張りたいと、意思変容にいたった事例を振り返り、価値観を共有する大切さや、機能障害へのサポートについて考えていきたいと思えます。

日時 : 令和4年6月27日(月) 17:30~18:30
(17:00 受付開始)

場所 : A棟1階大講義室(オーディトリウム)

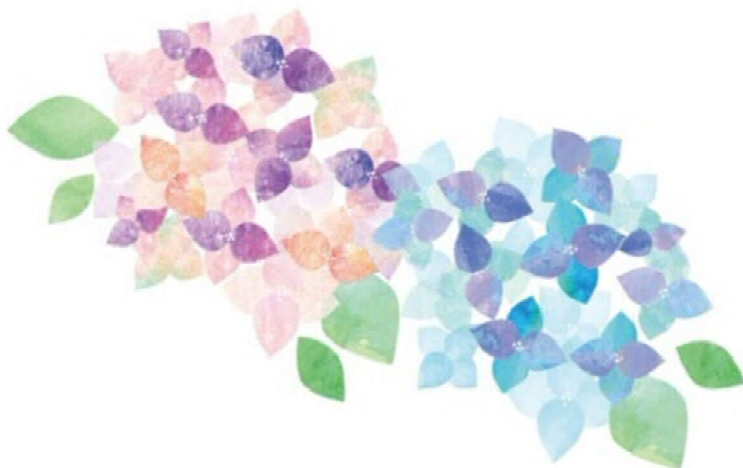
参加費 : 無料(申し込み不要) **対象** : 院内医療従事者

テーマ : “孫と自分の声で喋りたい!!”と願う舌がん患者の失声

に対するサポートの一例 (各演者10分程度・テーマに沿った討議20分)

発表者 : 山崎 加代子 先生 B棟6階(耳鼻咽喉科)看護師

大野 陽子 先生 緩和ケアセンター看護師



《 お問い合わせ先 》

山口大学医学部附属病院

緩和ケアセンター事務局(担当 松原)

Tel : 0826-85-3070 Fax:0836-85-3071

E-mail : y-kanwa@yamaguchi-u.ac.jp

共催 : 山口大学医学部附属病院緩和ケアセンター
山口大学医学部附属病院腫瘍センター